



# 茶

## 落葉防止対策を 万全に！



農業経営支援課  
福手 裕三

防寒対策はお済ですか？これから春先にかけて季節風が強い日もあるので、防風施設の点検や補強が必要です。

### 1. 寒害の種類と対策

#### (1) 凍害（赤枯れ）

茶樹が-10℃以下の低温下に長時間おかれると、葉身に赤褐色斑が生じ、被害が顕著になると葉全体が枯死する。

#### (2) 寒干害（青枯れ）

寒風により蒸散が過剰になるか、土壌の乾燥が著しい場合、土壌や茶樹の一部が凍結し、水分補給が絶たれた時に発生。葉が乾燥状態となり光沢の無い笹色となる。

#### (3) 寒風害（落葉）

低温下で弾力性の低下した茶葉に寒風があたり、葉柄または葉身基部から落葉する。幼木園のように枝数が少なく、葉が密着してい

ない場合は、被害が著しくなる。

#### (4) 裂傷型凍害（幹割れ）

初冬や春先に気温が急激に降下すると、耐凍性の弱い品種や幼木園などは、幹の地際部の形成層が凍結し、樹皮に裂傷が生じる。生理障害や枯死する場合がある。

茶樹の耐凍性、耐寒性は、「成葉①②枝③④根」の順で高い特性があります。樹木の耐凍性は葉から始まり、幹の下方に伝えられます。末端の細根は、厳冬期でも耐凍性が高まらず、-3℃程度が限界の温度とされています。敷き草等の施用は、寒害対策と有機物の補給につながるため、積極的にいきましょう。また、最終施肥時期が遅くならないようにするのも寒害を防ぐポイントです。寒害は、気象条件に大きく影響され、対策には大きな労力とコストがかかります。でき

る範囲で対策を行い、茶樹のストレスを軽減しましょう。落葉や病害虫被害がなく園相が良ければ、翌春一番茶の新葉数も多くなること期待できます。

### 2. 翌一番茶葉数の確認

秋整枝作業後、11月中下旬までに翌一番茶になる幼芽形成が終了します。越冬芽を力ツターで縦か横に切断すると開葉数がわかるので、確認してみましよう。基本的には、芽が小さいと葉数が少なくなりま

